

海外研修報告書

1. 研修に参加した目的

私は短期大学1年生の時に初めて中国語を学び、授業の先生の話から初めて中国という異文化に触れた。その時から中国の文化、芸術、思想などに魅力を感じ、中国語を使って会話ができるようになりたいと感じていた。さらに勉強していくうちに、将来は中国を舞台に活躍できる人材になりたいと感じるようになった。そのため、今回の夏季研修の目的を「中国語の語学力向上」と設定し、日本の授業では感じ取れない本場の中国を体感し、授業や普段の生活から中国語を身につけようと臨んだ。

2. 研修の概要

研修期間は4週間であり、授業は土日を除く、平日の午前中4時間であった。1, 2時間目は文法の授業、3, 4時間目は口語の授業で構成されていた。午後は北京市内の世界遺産や有名な場所などに、見学に行くというプログラムだった。

授業の担当だった先生は日本語を一切話すことができない。中国語と、それが伝わらなければ英語を使って授業を進める。教科書にも日本の文字はなく、中国語と英語で表記されている。はじめはこの授業形式にとても戸惑った。1, 2時間目の文法の授業は特に難しく、文法の説明を中国語のみで理解することは、はじめは大変苦労した。毎日辞書が手放せず、わからないことがあったら、先生にもう一度説明してもらおうか、その場で友達と確認しあう、もしくは授業後に調べて習得するようにした。文法の授業が難しい一方で、口語の授業は楽しんで参加することができた。先生や友達と中国語で会話し、語学力を強化させるのがねらいであったと思う。さらに中国語で寸劇を行い、レストランや駅で使う表現なども学んだ。

午後の見学では、中国の有名な場所に多数行くことができた。北京大学内にある未名湖から、天安門広場、万里の長城にも行った。さらに、北京から寝台列車で6時間かけて大同にも行くことができた。北京について数日後に自転車を買ったため、プログラムには含まれていなかった場所へも簡単にいくことができ、貴重な経験をした。

3. 研修の具体的な成果

北京で過ごした4週間で得たものは今の私に大きく影響していると感じている。研修を通して得た具体的な成果を挙げると大きく分けて2つある。

1つは、目標を達成できたことである。前述したように、私は今回の夏季研修の目標を「中国語の語学力向上」と設定していた。一切日本語を使わないで授業が進められたため、自然と中国語が身に着いたと感じる。さらに、毎日行われる単語の小テストや、暗証のテスト、大量の宿題もこなすのは大変だったが、しっかり習得できるよう、工夫して取り組

んだ。北京大学図書館で知り合った中国人学生に授業でわからなかった点を教えてもらったり、北京大学の大学院に通っている中国人にテスト勉強を見てもらったりした。さらにレストランや販売店の店員、通りすがりの人に中国語で話しかけることで、中国語を能動的に体得しようと努力した。中国語にしか触れることができない環境があり、また、様々な人に出会えたからこそ中国語を身につけることができたと感じている。

ふたつ目は、中国の文化や風習、生活に触れることができたことである。私は日本での中国語の授業を通して、中国の文化や風習に興味を持っていた。今回の研修プログラムにあった家庭訪問で、その実態に少しではあるが触れることができた。私たちは北京大学の教師のお宅に訪問した。家の中や外見は、日本の一戸建ての家と大差はなく、清潔感がある。さらに、日本のアニメのキャラクターの置物も飾ってあった。リビングの中央には大きな丸い机が置いてあり、そこで夕飯をごちそうになった。やはり中国の伝統的な料理が多く並び、量もたくさんであった。中国では大皿に盛られた料理は残すのが礼儀といっても過言ではないらしい。残すことで、食べきれないほど振舞ってもらったという感謝の気持ちを表しているという。日本では残さず食べることで、作ってくれた人や食材への感謝の気持ちを表す。日本と中国では食文化の違いがあると発見できた。

このように興味を持っていたことが中国で暮らすことで発見につながり、また新たに魅力を感じることもできた。今回の研修を通してかけがえのない経験をすることができたと感じている。

4. 研修を通して学んだこと

授業以外の課外活動でも多くのことを学んだ。念願の京劇や雑技を鑑賞できたことは大変嬉しかった。さらに北京から遠く離れた、大同へも足を運ぶことができたのは、中国文化を知る上で大きな収穫となった。これらの経験の中で、私が一番興味をひかれたのが、盧溝橋見学である。中国人民抗日戦争記念館には、日中戦争の生々しい傷跡が残っている。読んでいるだけで気分が悪くなるような記事や、目も当てられないほどの痛々しい写真が展示されている。それらは中国人にとって辛く悲しい戦争であったということを物語っている。それらの展示物を見ていると、現在の日中関係に影響しているのは、やはりこの戦争なのではないかと、思わずにはいられない。私は、このような歴史の知識は浅いままで、ただ語学力だけを伸ばそうとしていた。それではたとえ流暢に会話ができるようになったとしても意味がないということに気付いた。歴史を学び、現在の日中関係を歴史の面からも探っていくことで、将来に生かせる知識が身に付くのではないかと感じる。この研修を通して、これまではほとんど無知に等しかった、中国の歴史について学ぶことができた。

中国で得たものは想像以上に大きかった。語学力を向上させるという目標を達成できただけでなく、文化や歴史の面でも、中国を知ることができた。今回得たものは、ほんの一握りにすぎないものであると思う。来年度国際学部にも編入して、これからも中国のことを学んでいくうえで、この夏季研修で学んだことを生かしながら勉強を続けていきたい。